

マンスリー・サンズ・トーク(63)

2014.2.1

木村 譔

新宿は江戸四宿のひとつだった

徳川時代、日本橋を起点に各地へ通ずる街道が整備され、江戸のうちに品川、千住、板橋、新宿、4つの宿駅が設けられた。新宿は、今でも人口の集散が甚だしく、宿駅というに相応しい。そこで、江戸の宿駅という見立てで、新宿を歩いてみました。

新宿御苑

家康は、関が原に勝って豊臣秀吉の覇権をすべて手中に収めたが、それでもまだ、幕下から謀反を起こされる危惧を持っていた。万一の際の備えに、甲州へ一直線で退避することを考え、その通路に彼の親衛隊、信州高遠藩の内藤氏を据えた。馬が一息で駆け巡れる広さの地を与えることにし、内藤氏は千駄ヶ谷から四谷、大久保の範囲を駆け回って、広い区域を領地として拝領した。広大な今の新宿御苑は、内藤氏の下屋敷のあとであった。



新宿御苑の芝生広場のユリの木

甲州街道の新宿追分

内藤氏の領地に囲まれるように甲州街道を造り、内藤新宿という宿場を設け、あまたの旅籠が軒を連ね、飯盛り女や客引きが旅人を誘う繁華街になっていった。街道は新宿御苑の北で三叉路になり、青梅街道と分岐していた。現在では、新宿3丁目だが、その角の交番に追分交番とその名が残っている。街道の交差するところはひとときわ繁盛したに違いない。今、交番の裏手には、寄席があり、零細な食べ物屋、居酒屋がひしめいていて、昔はこころが内藤新宿の中心だったかと想像されるのである。



昔、甲州街道と青梅街道が分岐していた追分交番



交番の裏手にある寄席「末広亭」は昔の風情を偲ばせる。そして、交番の向かいでは、今、伊勢丹本館や丸井が買い物客をひきつけているのだった。

花園神社

花園神社は、稲荷を祀る商売の神で、新宿の総鎮守。この区域は度重なる火事で社殿が焼失し、復旧の資金集めのため、舞台を作り、見世物を出したりしたので芸能の神ともいわれている。新宿は、焼けるたびに激しく開発されるので、旧の宿場の痕跡を見ようとしても、殆ど残っていないのだった。

